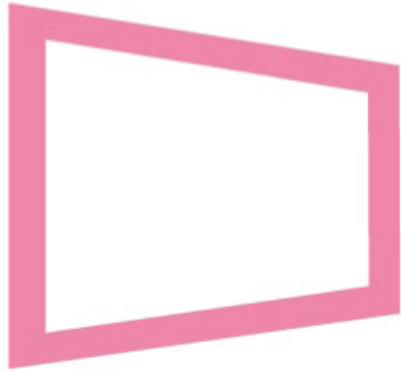


もっと身近に、  
生物多様性。



**CEPA  
JAPAN**



生物多様性と子どもの森

キャンペーン

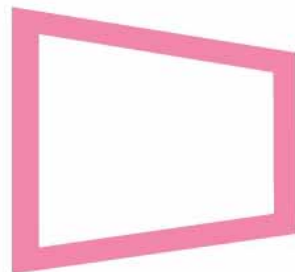
**CEPA(セパ)とは？**  
**締約国の義務である**  
**生物多様性条約第13条**  
**から生まれた言葉**

**Communication**  
**Education**  
**Public**  
**Awareness**

一般社団法人CEPAジャパン  
生物多様性と子どもの森キャンペーン  
川廷昌弘

これからの私たちに必要なのは、  
かつてのように自然と人間を切り離すのではなく、  
生活が豊かな自然資源に支えられていることを  
きちんと知り、行動すること。

CEPAジャパンは、  
生物多様性をもっと身近に感じてもらうために、  
「広報・教育・普及啓発(CEPA)」に関する  
情報共有・そして推進の場として設立されました。



**CEPA**  
JAPAN

もっと身近に、生物多様性。

# CEPAジャパンが考える「国連生物多様性の10年」

10年かけて奏でるいのちの物語は森から。



目指す姿はひとつ！  
自然の恵みに支えられた持続可能な地域づくり

CEPAジャパンが取組むCEPAとは

「決議と暮らしをつなぐ」のがCEPA。

ゴールは自分ごと化、そして行動を変えること。

各地で行われている郷土愛による取組みを掘り起こし、

条約をその活動で説明し、決議の見える化。

その結果、地域のテーマや方向性が見えてくる。

国際機関、政府、自治体、メディア、企業、学術機関と関係構築。

学校教育から流通店頭まで、

現代の「伝承者」のあるべき姿を探求。

## 愛知ターゲット【目標1 普及啓発】

遅くとも2020年までに、生物多様性の価値と、それを保全し持続可能に利用するための行動を、人々が認識する。

生物多様性について理解を深め、価値に感謝し、生物多様性を保全し、持続的に利用するため、ライフスタイルを変革。  
生物多様性の主流化(環境省)

そのためのCEPA(コミュニケーション、教育、普及啓発)は、政府、自治体、企業、NGO、そして生物多様性に配慮した商品を毎日購入する生活者としての市民など、幅広い層の行動を必要とする。

生物多様性民間参画パートナーシップの  
皆さんと共有していただきたい  
「企画」と「ご提案」

# 日本のグリーンウェイブは、木のある暮らしの再認識



THE GREEN WAVE



生物多様性と子どもの森

キャンペーン

# 東日本大震災・被災地に緑と心の復興を！ 「どんぐりプロジェクト」



生物多様性と子どもの森  
キャンペーン

Let's join the Green Tree!  
復興支援グリーンウェイブ

参加者募集!!  
**どんぐりプロジェクト  
プロジェクトD**  
～被災地を応援する子どもたちによる緑のまちづくり～

被災地に緑と心の復興を

2011年3月11日、東日本大震災により、大きな被害を受けたお寺、宮城、福島等の広大な樹林地。これから毎年おこなわれる苗木の配布を行わずにばりません。「どんぐりプロジェクト（プロジェクトD）」は「どんぐり」の力で、全国から丹精を振り、被災地に送ったどんぐりから苗木を育て、被災地に送り返して植樹することで、被災地の緑の復興を応援する活動です。一緒にどんぐりを育てるみなさまの参加をお待ちしています!

2 集げ取る  
『どんぐり＆マニアルセット』が送られます

1 被災地のどんぐりを拾う  
被災地のどんぐりのみを使用します

3 全国で育てる  
どんぐり苗木に育てます

4 被災地に植える  
2013年度から開始します

5 被災地の森を育てる  
緑の復興を促します

被災地と全国の子どもたちをつなぐ  
プロジェクトDのフロー

苗木の選出  
子の機嫌を  
防ぐ

木を育て  
心を育てる

主催：山形県立環境土壌学術センター、宮城県立環境学術センター、福島県立環境学術センター、生物多様性と子どもの森キャンペーン実行委員会、公益法人地球環境基金  
緑と心の復興を！どんぐりプロジェクト（プロジェクトD）お問い合わせ先  
プロジェクトD全国事務局（財）日本環境基金 150 e-mail: [donguri@earthmail.ne.jp](mailto:donguri@earthmail.ne.jp)  
〒109-0002 東京都港区赤坂1-4-14 地球環境基金 5F TEL: 03-6943-6201 FAX: 03-6943-6200

被災地を応援する全国の子どもたちが、  
被災地のどんぐりを苗木に育て、  
被災地に送り返して植えることで、  
被災地の緑の復興を応援する活動です。



被災地と全国の子どもたちをつなぐ

木を育て心を育てる

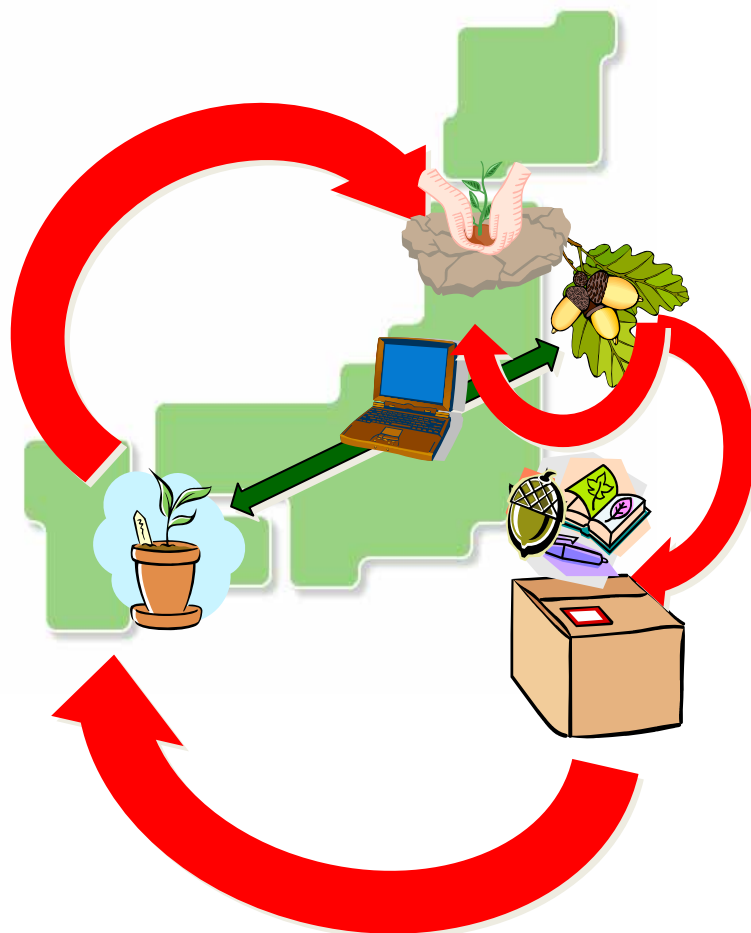
被災地の森の、遺伝子攪乱を防ぐ



# 東日本大震災・被災地に緑と心の復興を！ 「どんぐりプロジェクト」



## 方法と目標



3年間で、10万人の参加者を  
目指します。

被災地で採取した種子から  
10万本の苗木を育てます。

被災地で40ヘクタールの  
面積に植樹します

# 生物多様性条約事務局による戦略



自然と共に生きる

Home

IYB

Goals

Events

Learn

Media

Participate

## 行動の変革

各国のフォーカルポイント、国連機関及びプログラム  
その他の主体に、下記のことを行うよう奨励:

- 生物多様性に関する普及啓発
- 戦略計画を実現するための行動を実行に移す
- 生物多様性条約の実施のためのネットワークを強化する
- 各主体の行動の連携を強化する
- 活動をより主流化する

# 生物多様性条約事務局による戦略



国連 生物多様性の10年

自然と共に生きる

Home

IYB

Goals

Events

Learn

Media

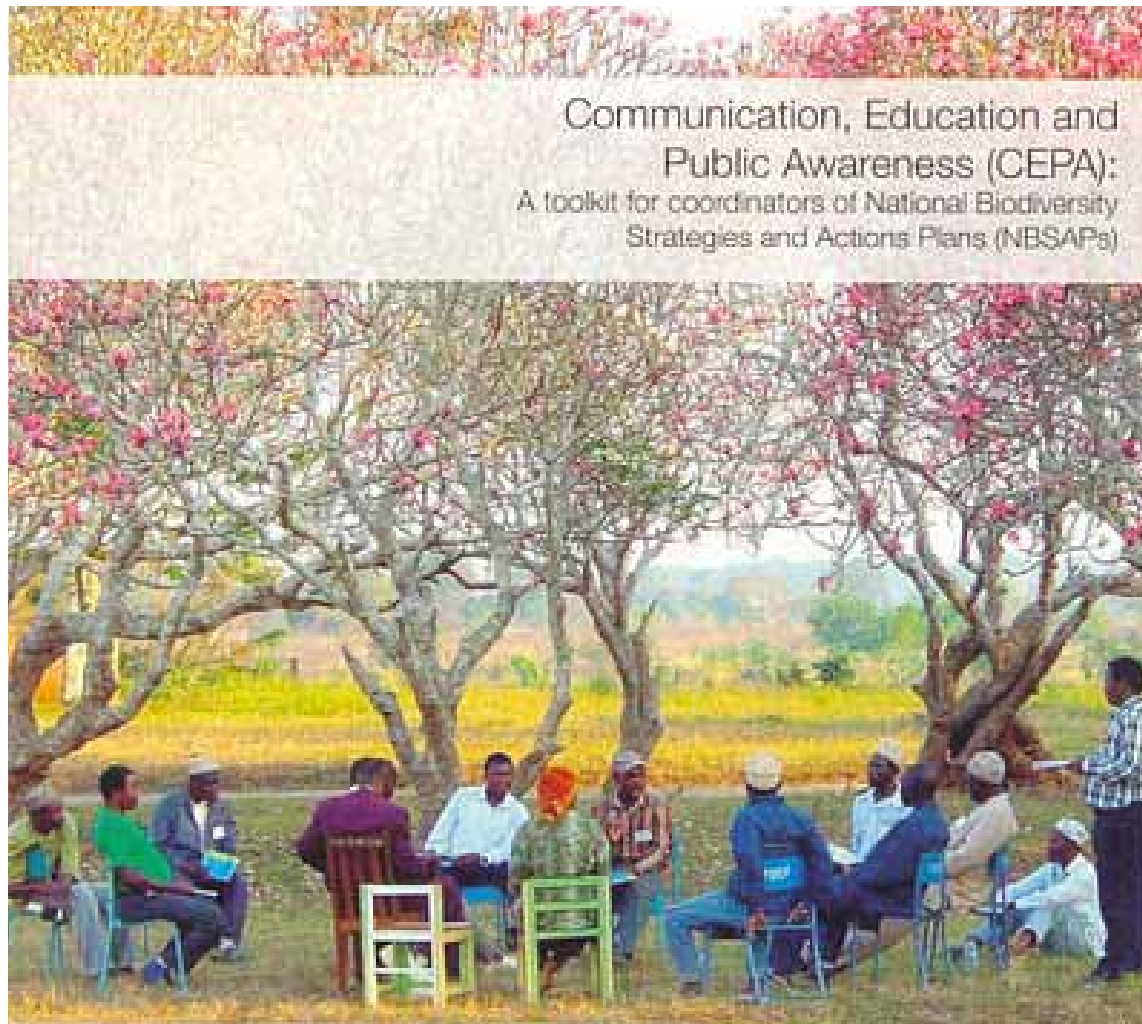
Participate

## 生物多様性に対する認識の変化をモニタリング

- 一般の人の認識・考え方に関する、「指標」および「ベースラインとなる情報」を確立する
- リージョナル、サブリージョナル、および国レベルの調査が行えるような、地球規模の枠組みを開発する
  - 世論調査実施機関
  - マーケティング会社
  - 政府
  - 地域機関とのパートナーシップを確立する
- 能力開発イニシアチブに関する既存の専門知識を活用する

# CEPAツールキット グローバルスタンダードをアレンジしよう！

条約事務局がIUCN-CECに委託した  
国家戦略策定者のためのコミュニケーションに関するテキストを、  
CEPAジャパンが300ページ初日本語訳、オフィシャル版になります。



# 生物多様性民間参画パートナーシップ 「CEPAワーキンググループ」のご提案

## 目標1に対応するプラットフォーム作り

### 企業の発信力は社会の大きな力

- 1、CEPAツールキット翻訳版を読み解く
- 2、副読本を作成しそのミッションを共有
- 3、拠点をネットワーク = 人と生態系のネットワーク
- 4、省庁、自治体、地域企業、学校、NGOと連携
- 5、市民モニタリング活動

# 生物多様性民間参画パートナーシップ CEPAワーキンググループのご提案

自然の恵み豊かで持続可能な社会  
にじゅうまるプロジェクトの完結



【市民の行動】  
主体的な独自の活動



【市民の理解】  
全国市民生物多様性  
意識調査(CEPA白書)

【市民の参加】  
全国市民生態系マップ作り  
生物多様性ネットワーク

CEPAツールキットの  
民間参画のための独自解釈  
「オリジナル副読本」制作